身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…

▲マーキングされたアサギマダラの羽

4 ふるさと訪ねて 2千キロ

日本では昔から色の微妙な違いを表現してきました。薄い水色は「浅葱色」と呼ばれています。羽が水色と小豆色でまだら模様のアサギマダラというチョウは、8月ごろに蔵王の澄川ゲレンデで日陰のヒヨドリバナにたくさん集まっています。

アサギマダラは春から夏にかけて九州などで生まれ、はるばる東北まで北上してきたのです。細い胴体に比べて大きく広い羽で長距離でも気流に乗って滑空しながら移動できるようです。

9月になると、南の方に次々に飛び立っていきます。途中で代を重ねながらですが、長い時間をかけてふるさとに戻る旅のスタートです。

どうしてそんな長距離を移動することが分かったのでしょう。実は、アサギマダラの羽に油性ペンで文字や日付などを書いて飛ばす「マーキング」の方法で調べたのです。以前、町の昆虫教室でも宮城蔵王から日付を書いて飛ばしました。南国で採集した人が報告できるインターネットのホームページは「アサギネット」です。興味のあるかたは、検索してみてください。

これまで最も長距離を飛んだアサギマダラは福島県から沖縄県与那国島まで2千キロ飛んだものです。関西から台湾や中国まで飛んだ報告もあります。

母を訪ねて三千里ではないですが、日本列島を縦断し、ふるさとに戻って子孫を残すために頑張っているアサギマダラには脱帽ですね。

次回は、平地と高原を往復しているトンボの話を紹介します。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん

さくらっきー♡

朝顔
おしの ともこ作

大河原町観光物産協会HP上で連載中
http://www.oogawara.com

毎月6人に500円の図書カードをプレゼント！

だれでもイラストレーター

▲「はるみん」

◀「泉川ゆい」

◀「コマさん」

◀「井上翔太」

◀「ひびっきー。」

◀「あさみっきー。」

今月はたくさんの作品が！載らなかった人も気長に待っててね。

ヘルスメイト大河原の ベジfull キッチン

野菜たっぷり簡単レシピ

青菜のおろしあえ

平成26年度大河原町食育スローガン「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

【材 料(4人分)】(写真は1人分)

小松菜240グラム、ニンジン90グラム、大根300グラム、しょうゆ大さじ1½、酒小さじ2、酢少々

【作りかた】

① 小松菜はよく洗い、たっぷりの湯で色よくゆでる。

② ニンジンは千切りにし、さっとゆでておく。

③ 大根はすりおろす。

④ 小松菜は3㌢くらいに切り、ニンジンと合わせて大根おろしであえ、しょうゆと酒で調味する。(大根がからいときは、酢を少々ふる)

【データ(1人分)】

◆エネルギー/32キロカロリー

◆塩分/0・9グラム

レシピ担当
水間ちる子さん
(原前区)

小松菜はカルシウムが豊富なので、骨粗鬆症予防のためにも摂りたい野菜です。

調味料にはしょうゆのほかに酒も使用しているので、減塩のポイントにもなります。

アートの種まき

えずこホール・わくわく・シアター・こらむ

『えずこと遊ぶ日』が撒く種～全館かえっこ／遊ぶ日ファイナル！ NEXTステージへ！～

『えずこと遊ぶ日』は2008年に始まり、これまで6回の開催で延べ8,512人もの参加者でにぎわってきた大型の「かえっこバザール(いらなくなったおもちゃの交換プログラム)」です。その『遊ぶ日』が新しく生まれ変わります。

『えずこと遊ぶ日』は巨大な交流・体験型のひろば。その中で子どもたちがさまざまな楽しい体験ができる仕組みを持った事業です。そして、ボランティア参加する大人や学生ら幅広い地域の人たちも加わり交流の場を作っています。来年以降はこの特徴を生かし、自治体との連携など枠組みづくりの拡大と強化を目指していきたいと考えています。

『遊ぶ日』が撒いた種は、人や団体、地域を繋ぐ蔓のようにその先を伸ばし、ネットワークの一つのあり方を違った角度から見つめなおす力を持っています。地域を変えていく可能性や夢を描く力を秘めた事業として、その成長を見守っていただけたらうれしく思います。

『えずこと遊ぶ日 7』9/21㊐午後1時～4時30分。ボランティア募集中。詳細はえずこホールまで。

問えずこホール☎52-3004 URL http://www.ezuko.com

わがまち文芸道場

カシオペア音のかすかに竹落葉　カツオ
青柿の青さに秘める力あり　啓子
入道雲に切り込んでゆく雨燕　せつ子
離島より離島へ流る麦藁帽　智賀
紅殻の桜門著き夏の天　裕子
水に落ち流るる早さ螢の火　房枝
通し鴨いぐね横切る小川かな　芳子
空蟬が何か呟く日暮かな　三山

【逢河俳句会】

奥山を拓きし丘は雨にけぶりモンタナリゾート山法師咲く　佐藤睦子
世の中にこれほど苦きものありや一つまみの千振湯を注し飲めば　小成田紀代子
会話中藁駄の名前出てこない資料館で見友に知らせぬ　小成田忠雄
遠き夜々鳴きゐし寺の青葉木菟昨夜に聞きしはわが空耳か　星和貴
宮参りむずかる男孫をあやしつつ祈祷を受けり幸なる重みよ　加藤倫子
明月院姫あじさいの咲く小径友と歩みし雨の鎌倉　菅野美榮子
深みより昇り来し鯉群なして水面に吸い込む若葉の匂い　大友道子
庭隅にびっしり生えし十字花どくだみ臭う今は友達　水戸彦次
終戦の記録をつぶさに読みつぎて思ひ知らさる罪の深さを　水戸玲子
この年の梅雨は南が激しとふわが地は少なく高齢は安らぐ　丸山ひさ子
葦原にぎょぎょしぎょぎょしと鳴くとりの正体みたりよしきり愛らし　佐藤昭子
青々と稲伸び盛るみなづきに許してならじ戦争への歩み　菅井加寿子
雲多き空なり奥は青き空不幸の向こうの幸せのように　本木定子
恙なく暮らしおりしかと案じおれば孫と案じおりしと電話くれたり　加藤てる
霧の湧くテニスコートに試合らし中体連の選手らが見ゆ　髙城和子
毛せんに足をくずして抹茶飲む外人の居る浜離宮なり　小原チハル
通じ合えぬ言葉もあれど孫たちは笑顔を残し外国へ帰りぬ　小原啓作

【大河原短歌会】